令和6(2024)年2月5日発行　第153号

こびとのおうちえんLetter

2月5日

みんなでうさぎの原っぱにいく。イ行きながら、竜の玉さがし。竜のヒゲの中をかきわけて、竜の玉を、あった！あった！と発見する。なんともいえないコバルトブルーのひかる玉。手のひらにそれぞれのせて、みせてくれる子どもたち。わたしもとるのがたのしい。かきわけてさがすのがたのしい。竜のヒゲってけっこうあちこちにあったんだな。ハプし前までは、なかったのに気づくとこんなにあったのか。(かほ)(もいく)は歩きながらリースをつくったり、南天の実をとってもってあるいてる子もいる。うさぎの原っぱに着くと、フカフカの中にも竜の玉。そうかここ竜のヒゲだったんだー。それからススキの穂を長くとってゆらして風にフワフワとばす。雲みたい。がっの穂もとってあそんだ。

1月はこんなことしました

- 初もうで
- かくれんぼ
- 身長木を切る
- ふきのとうとり
- ぜんざい作り
- すもう
- 竜の玉さがし
- 花いちもんめ
- 庭で穴ほりしてあったか温泉づくり etc…
- 木琴作り
- 梅さがしさんぽ
- こおりさがしさんぽ
- 木工作
- ターザン公園であそぶ
- きのこさがし
- サッカー
- ごむとび
- フライドポテト作り
- 下グラでけいどろ
- 墨でお絵かき
- 琴石山登山(修験ルート)
- 山の広場でみんなでキッチン
- 上関散策

2月のスタッフプラン

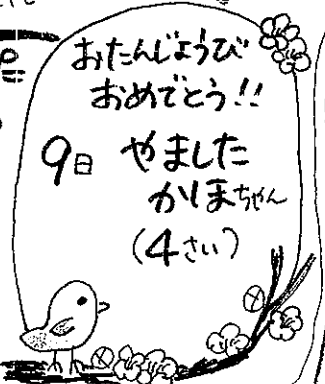
みそづくり　おでかけします。

6日(火) 空べんとう箱の日
※空のおべんとうばこをもたせて下さい。

26日(月) おべんとうの日
天神山へ行こう(防府市)
※おべんとうの準備をおねがいします。

2月のペアレンツグループ

2/1(水) 13:00～15:00
場所　もみじの家
内容　フィーリングループ
自分のきもちについてねいろに話される時間、メンバーのきもちを聴き合う時間です。
※参加される方は、事前にご連絡下さい。



よしみさんのコーナー

今年の干支は辰。5回目の年女で還暦を迎えます。今回は私と同じ年の田舎の家について思うところを書かせてもらいます。

1月1日に地震があって能登半島には父方の生家(田舎の家)が在る。半島のくびれの内側にある七尾市の二駅手前にある良川という所。父の長兄夫婦、私にとっては叔父叔母が住んでいた。その家に、子どもの頃夏休みになった途端、大阪に居る従兄弟姉妹(上は高校生から1番下が幼稚園児の私)、多い時は総勢15名がそこに集結し合宿生活が始まる。何故なら父方の親類は大阪でそれぞれ自営業を生業としていたので、夏休みで家にいる子どもたちの世話が出来ないので、いっその事、田舎の大きな家に皆んなで預けてしまえー！的な感じだったとのこと。引率してくれる年上のいとこ達が居なくなって、終了したのが小学校中学年だった。

都会の団地暮らしの私にとって田畑の広がった長閑な里山の風景に、新しくて大きく古い建屋(大人になってみたらそんなに大きくないです)と苔むした庭のある田舎の家は、特別な場所だった。そして、そこでの生活は普段家ではしないような、本当に合宿のようにラジオ体操(私は起きれず不参加)から始まり、掃除、洗濯、畑や田んぼのお手伝い、食事のために必要な野菜の収穫、合間に宿題や勉強、もちろん遊ぶのも！親がいない寂しさ反面、期間限定の特別感で少しの自由を楽しんでいた。行かなくて良くなったとはいえ、行きたくなったら行ける所として大人になってからも繰り返し訪れていたし、時には友達を連れていったりもしていた。その度いつも快く迎え入れてくれた叔父叔母の存在は言うまでもなく大きかった。

その時の原体験として、井戸水を汲むときは呼水がいる、田んぼに入ったらヒルに噛まれて痛かったし取ろうと思っても簡単に取れない、もぎたてのいちじくは美味しい！、蚊帳に出入りする時は蚊が一緒に入らないように素早く上げ下げする、他にもっと色々あるけど、どれもこれも実際体験しないと分からない事で、田舎の家に行かなかったら何もする事なく大人になったかもしれない。自分というものの基礎の一部がここでの生活の中で得たものだと確信するくらい大切な場所だったんだ。無くなるかもしれないと思った時に気付けて良かった。家は幸い今回の地震で倒壊はしていないと聞いているけれど既に空き家として数年放置されていたのでなくなるのは時間の問題かと思われる。

そして気づいてしまった！おうちえんという場所も同じじゃない！ここで体験する事が子ども達の身体に心に染み込んで育まれていって、大きくなっていつの日にか、ふと振り返ってみた時に、ここだよ！って。思い出した中の何処かに私も入っていたいな。そうなる様に今を大切に子ども達と過ごそうと改めて思います。

岡部吉美

すもうでたおされて「いたいー！」「あやまってほしい！」といって泣く(しお)。それを「すごくくやしかったんやね。」ともも(もも)ちゃんが(しお)のきもちをストレートに出せるようにお手伝いしている。あとからきいたら、(かほ)が何回もたおしたらしい。(かほ)は、(かいと)ととりくみ負けるけど闘志がすごい。でも勝てない分、(しお)とどんどんなぎたおしたらしい。(しお)もめげずに何度も挑んだんだな。(かほ)どうしたん？と通りがかりに(かほ)にたずねたら、(しお)が、「くやしかったらかな」と答えた。(1/10)

(ふう)(うた)と恵の池までおさんぽ。みかんをとってもっていく。ガリヨシのところで「あけましておめでとう～!!」と、ガリヨシ(岩)に抱きつく2人。よしよしもしていた。そして、「よろしくね。」って言う。いつもは通りすぎる道の横にイノシシ道をみつける。すると、「ここ、入ってみよ。」と(ふう)。「いいよ。」と(うた)のほうていく。上につくと、おじぞうさんをみつける。おじぞうさんにも「おめでとう！」「ここ通らせてもらいます」と(ふう)。そこから、おたまじゃくしの池の横におりてきた。「新しい道みつけた！」と喜ぶ2人。進んで、また、ここから入ってみようか、と知らない道をたんけんした。よっこは、あっきーやももちゃんのように男の子たちとワイルドに山に入ってしげんないけど、女の子たちとプチたんけんすることは、その女の子その子であるんだよな。小さなたんけんでも超満足なのだ、女の子たち。キムもそれが楽しい。2人はん児の日、よしみさん、(けい)(しょうま)と一緒にもう1度このコースに行き案内した。うれしかったんだねー。(1/9)

(かいと)にとったつくしの長さをきいたら、「(かほ)の親指とひとさし指をたげたくらいと思う。」(1/22)

「どうしてもごろとびしたい！」と(さゆき)。それなに長くはもたないんだろうと思いほや、これがずーっとおひるまでつづいた。矢のってるとび方を何回もくり返し、失敗するとび方のは成功するまでくり返し、あきると新しいとび方を自分で考えてあみだし、とびはじめた。とび方に「バナナとび」「きゅうりとび」「すいかとび」…と名付けてとんでいる。時々、休けいしたら、けがをするを自慢めて、「今日は00がけいだね。」「(さゆ)が上ハズカになってるね！」けいどろがしたいと言い出すかなみを思ったけど、まだまだ。私にも「とぶ？」と言ってかわってくれたり。その(さゆき)の熱ゆえいただけで、私は、ただただたのしかった。さみしかったけど。そして「ねえねえ、おひめさまになる予定いる？」ときいてくる。「いる」と言ったら、「まってねね」と言ってさがしにいって、それから、木イヌノフグリの花をくくりつけとかざる。「これでなれるよ♡」って。2人でくるくる。「ねえ、王子さまだれにする？」ってきいたら、「(しみ)」と答えた。「よっこは(きょう)くんにするね。」と2人で自分勝手にきめて、勝手にそういう設定であそんだ。(1/30)

今年度の子用の成長棒(身長をさざん棒)を(しょうま)(かいと)がとかってくれた。椿の木をさがす。まっすぐで適度な太さのを見つける。ちょうどいいのも見つけて、いっしょうけんめいとかってくれた。赤ユースの入り口付近の山の中でとかって下まで運んだ。立ってる生木をとかるのは大変だけど2人ともバッチリやってくれた。ありがとう!!ここ最近はずっと年長さんが2人の子たちへとかるっていうのが1月の景色のひとつになっている。(1/12)

よっこのちょこっとおうちえん日誌へ日々のおれこれ～

＿＿＿＿＿＿の様子をおしらせします